

向陽

〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(088)833-4394 FAX(088)833-7373

<http://www.tosaobog.com>



## 新校舎竣工ご挨拶



学校法人土佐高等学校  
理事長 宮地 貫一  
(21回生)

「筆山ノ麓 鏡川ノ畔……」と開校記念碑文にあるとおり、筆山に向かつて、あざやかな純白の新校舎が竣工致しました。

二十一世紀を迎えた土佐中・高等学校の新しい時代がここから始まります。

この新校舎建設のプロジェクトは、前理事長川B幾三郎氏(平成二十年九月逝去)のご英断によって平成十九年七月から進められ、今日に至りました。その間、学校関係者・振興会・同窓会の皆さんが心を一つにして取り組んで下さり、更に財政面など県当局のご支援と工事関係者の多大なご尽力を賜りました。皆様の善意とご努力に対し、心から厚く御礼申し上げます。

このような多くの方々の想いのこもった新校舎で、生徒の皆さんが、未来に向かって力強く歩んでいかれることを期待してやみません。

今後とも県民、地域の皆様方の御力添えと御協力をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

# 新校舎竣工記念式典・祝賀会

一月一八日(水)、昨日の冷たい雨にうって変わって、さわやかに晴れあがり、九時からの定礎式、竣工式、そして、一〇時から竣工記念式典が、また夕刻六時から祝賀会が行われました。

## 定礎式

定礎式の定礎の儀では、宮地貫一理事長の除幕の儀、佐野吉彦(榊)安井建築設計事務所代表取締役社長の水平検知の儀、小橋鴻三清水建設(株)取締役専務執行役員関西西事業本部長の垂直検知の儀、池上武雄校長による齋槌の儀が行われました。

池上校長 筆



## 竣工式

定礎式に続き、会議室で竣工式が行われ、二〇〇七年九月二六日に起工し、二〇〇九年一月一八日に無事に完成したことを感謝し、祝いました。



## 記念式典

応援歌と創立30周年記念歌を、この日のためにアレンジした吹奏楽部の演奏でスタートした竣工記念式典では、宮地貫一理事長、池上武雄学長の式辞に続き、尾B正直高知県知事のビデオメッセージの祝辞、高木直之振興会副会長の祝辞、また生徒代表として松山桃子生徒会長が挨拶をしました。

宮地理事長は、今世紀前半にも発生すると予測される地震に対して学校関係者の命だけでなく、日頃お世話になっている地域住民の避難場所として、災害から人々の命を守る役割を持った校舎が完成したことを、また、目の前の工事現場で繰り返し広げられる様々な新技術と技が生徒達に生きた教材になったことなどを交え



2008.6.6

2008.3.7

旧校舎



ながら、さまざまな道に進んでいく生徒に対し、「この新校舎を通して、過去と未来の、地域と世界の、そして人間と機械のつながりを確かめ、自分自身がそのつなぎ目にいることを自覚して、これからの生き方に生かして欲しい」と話されました。

池上校長は多くの人々の支えによってこの校舎ができたことへの感謝を述べました。その中の一人、前理事長の川B幾三郎氏がこの校舎の建設に尽力されたこと、完成を待ち望

まれていたのに、それを見ることなく昨年九月一日に逝去されたことが大変残念であると話されました。

尾B高知県知事はオランダ出張のため、あらかじめ学校を訪問して、映画部と放送部、その他運動部の生徒達と共同でビデオメッセージをつくり、式典で披露されました。メッセージでは在校中の経験を通して、友人はかけがえのないもので、大切にしてほしいなど、生徒達へ励ましのメッセージをいただきました。若い知事らしく、六階の筆山ホール前

の作業用のペランダに出られ、手を振る最後の場面では会場から拍手喝采が起きました。

高木振興会副会長からは、この新校舎という礎ができたように、土佐中・高等学校でこれから全国、全世界で活躍する、未来へはばたく礎を築いてほしいと、励ましの言葉をいただきました。

松山桃子生徒会長は、「最初に新校舎に入ったとき、使うのがこわいくらいきれいな建物でした。この建物が多くの皆さんのおかげでできたことに感謝し、大切に使っていきたい」と挨拶しました。

### 記念祝賀会

当日の夜は、記念祝賀会が開催され、宮地理事長の挨拶、高地弘泰高知県私立中学高等学校連合会会長の祝辞に続き、新校舎建設に携わったCMRの三菱地所設計、設計JVの安井建築設計事務所・西森建築設計計共同体、建設JVの清水・新進特定建設工事共同企業体にそれぞれ感謝状が、池上校長から贈られました。中澤卓史高知県教育長（45回生）の乾杯で祝宴が始まり、工事関係者をはじめ、同窓会、振興会、潮江地区の方々、教職員ともども新校舎竣工を祝いました。



2009.8.24



2009.6.18



2008.12.24

# 学校長式辞

池上武雄 (28 回生)

皆さん、本日は、本校の創立記念日です。今から八七年前の今日、大正十一年一月十八日は、現在のこの地に旧制土佐中学校の新校舎が建ち、学校の前途を祝う盛大な落成式が行われた日であります。

爾来、本校ではこの一月十八日を学校創立記念日と定め、祝って参りました。

その記念すべき今日、このように大勢のご来賓の皆様をお迎えして、新校舎竣工記念式典を挙げて参りますことは、土佐中・高等学校関係者一同にとつてこの上もない喜びであり、今日に至るまでの多くの方々のご芳情に対し心から感謝申し上げますとともに、あらためて御礼申し上げます。

さて、本校の校舎建築の歴史を振り返ってみますと、大正十一年にこの地に建築された校舎は、昭和二十年七月四日の高知市大空襲ですべて焼失してしまい、各学年で各地の学校等の施設を借用し分散授業を行っておりましたが、各方面の方々のご尽力で、資材の大部分を元浦戸航空隊の兵舎の払い下げを受けて、終戦一年後の昭和二十二年九月にバラックの仮校舎が落成、曲がりなりに全

校生徒がこの地に揃って学習できるようになりました。その年の一月十八日、六三年前の創立記念日に、仮校舎落成を祝う復興記念式を挙げております。(略)

そして昭和二十三年六月から、校舎本建築第一期工事が始まり、六期にわたる工事を経て、木造二階建ての校舎が完成、昭和二十七年一月四日、落成式を挙げて、続いて昭和二十九年四月に講堂兼体育館が完成して、実に八年九カ月の歳月を経て、戦後の校舎復興工事が完了したのであります。

次いで戦後二回目の全校舎改築は、昭和四五年八月から始まり、第三期工事が完工、その落成式が創立50周年記念式典を兼ねて挙行されたのが、昭和四八年一月十八日、三六年前の本日であります。

そして、この度の戦後三回目の全面改築工事が、皆さんご承知のとおり、平成一九年九月の起工式から始まり、本日の竣工記念式典を迎えることになりました。今回の改築については、当初は創立一〇〇周年の記念事業として、西暦二〇二〇年迄に完成予定でしたが、次に予想される南海大地震を考へての耐震診断で

は、「倒壊の懸念あり」ということで、教育現場には安全で健康的な教育環境が最も重要であるところから、繰り上げて改築することになった次第です。

この戦後三回にわたる校舎建築には、本校の創設者であります川B・宇田ご両家のご支援はもとより、本校振興会・同窓会からの度重なるご援助、また国、県、市ご当局からのご支援も忘れることはできません。

今回の全面改築につきましても振興会・同窓会の皆様の強力なご支援を賜りましたうえに、なお引き続き募金活動を続けて下さっておりますことに心から感謝申し上げます。また、高知県ご当局からは多額の補助金を予算化していただき、厚く御礼申し上げます。

資金調達につきましては、皆様からお寄せいただくご浄財のほか、日本私立学校振興・共済事業団様をはじめとして、地元四国銀行・高知銀行両銀行様に多額のご融資をいただきました。

そして建築に携わっていただきました、CMRの(株)三菱地所設計様、設計JVの(株)安井建築設計事務所様と地元の(株)西森建築設計様、そして工事施工JVの清水建設(株)様と地元の新進建設(株)様はじめ多くの工事関係者様には大変なご尽力をいただき、



井上教頭 池上校長 三浦教頭 (45 回生)

限られた予算と短い期間内で、その上日常の授業に支障のないように格別のご配慮をいただきながら、全くの無事故で見事に仕上げてくださいましたこと、唯々有難く感謝申し上げます。本当に有難うございました。

そしてもう一つ決して忘れてはいけないことがあります。それは昨年九月一日にご逝去されました、前理事長川B幾三郎様のご恩についてであります。先ほど来申し上げて参りました本校校舎の戦後三回にわたる建築では、全て川B幾三郎様が理事長ご在任中に実行されたもので、今回の校舎全面改築につきましても、予想される南海大地震やそれに伴う

津波を想定した、日本で最初と云える免震構造の全校舎建築をご決断いただいたからこそ成ったものであります。

残念ながらご生前に校舎を見届けていただくことは叶いませんでしたが、前理事長川B幾三郎様の御霊はお墓のある筆山の上から、あの慈愛

## 祝辞

(定礎)

今朝、記念式典に先立ち、玄関前で定礎式続いて竣工式が執り行われました。



定礎式では校長先生直筆の定礎と書かれた板が建物に取り付けられました。定礎とは、建物の土台となる礎の石を定めることであり、本来は工事にとりかかる意味だそうです。定礎の意味を広く捉えてみると、完成したこの校舎自体が、これから未来へ羽ばたく土佐中高等学校の礎であり、今日は未来への基礎が出来た日であると言えます。

(生徒・学校生活)

さて、生徒の皆さんは、旧校舎、仮設の教室、新校舎への引越しいい、貴重な経験をされたと思います。

に満ちた眼差しで土佐中・高等学校を見守って下さっておられることと思います。ここに改めて皆さんと共に川B幾三郎様の御霊に感謝の気持ちを込めて御礼申し上げたいと思います。

さて、本校の建学の精神ならびに教育方針は、「報恩感謝の理念のも

振興会副会長 高木直之(57回生)

色々と不便もあつたとは思いますが、これからは安全で快適な最高の教育環境の中で勉強やクラブ活動に専念することが出来ると思います。さらに、皆さんが、将来土佐の先輩あるいは後輩と話をすることになって、新しい土佐の第一歩を踏み出した世代として話が出来ると、そんな特権もあります。

(同窓生・新ブランド)

一方で、同窓生からは、「思い出の詰まった旧校舎が取り壊されてさびしくなった」という声も聞きます。気が付けば、一番古い思い出の施設が、「新ブランド」となってしまうのは、なんとも皮肉なことではないでしょうか。先日は、その時の流れを感じます。先日は、その新ブランドで行われた運動会を拝見しました。生徒も、先生も一体となっ

と、学問を重んじ、礼節を尊び、スポーツを愛する学校生活を通じ、人格の完成と社会に貢献できる人材を育成することでありませう。

私も本校教職員百余名ならびに生徒一六八七名は、この安全で健康的な環境に安んずることなく、今こそこの建学の精神に思いを強く致し、

て全力で一つのことをやり遂げる、土佐の素晴らしさを知るにたる行事だと改めて感じました。

(校歌・タモリ)

話は変わりますが、タレントのタモリさんが、新築をした母校に招かれた時の事を番組の中で話していました。訪れた校舎やブランドは、すっかり様変わりをして、もう昔の面影も全く無くなってしまつて、もはや思い入れの無い建物に入つていったそうです。しかし、式典の中で「校歌」を聞いたとたん、思い出がよみがえり、自然と涙が溢れてきたそうです。

(校風・いい伝統)

「校歌」に象徴されるように、時は流れても脈々と受け継がれてゆくものがあつて、それが土佐校の最大の魅力であると思います。それは、文武両道の精神であつたり、自由な雰囲気であつたり、何事にも全力で一体となつて、和を以つて臨む事で

多くの方々のご芳情に感謝申し上げ、より高いレベルの文武両道の達成を目指して、一步一步着実に前進して参りたいと思ひます。

本日を契機に、土佐中・高等学校の輝かしい未来に向かつて、いっそう精進することをお誓ひして、私の式辞といたします。

あつたり、お互いを磨きあい高めあつたりとする精神であつたり...一言で言えばこれが「土佐の校風」というものでしょうか。その時、その時代の、先輩方からだで感じ受け継いできたものが、いい伝統を築いていると感じます。そして今の時代を築く主役は、ここにおられる皆さん全員です。

(生徒へのメッセージ・根っこ)

生徒の皆さんは、将来全国、全世界で活躍する能力を持つている方たちばかりです。しかし、どこへ行つても皆さんの「根っこ」はここ土佐にある事をぜひ覚えておいて下さい。将来、高知県には皆さんの力が必ず必要になってきます。だから今は、このすばらしい環境の学び舎の中で、しっかりと根を張り、栄養を吸収し、力をつけて下さい。そして、土佐の魅力ある校風が、さらに進化することを期待し、応援してまいります。

# 木造校舎の思い出 (S24~47年)

——「向陽曼陀羅」と私の土佐高時代——

西村 繁男 (40回生)



今から18年前、私は40会から卒業25周年の記念に母校に絵を寄贈したいと依頼を受け「向陽曼陀羅」という題の絵を描いた。それは私が在校していた当時の校舎を俯瞰で書き、その上空を袖に一本白線の制服を着た土佐高生の少年少女が浮遊している絵であった。その絵が学校のどこかに飾られているという話はいくぶん前に聞いたことはあるのだが、私の足は学校の方を向いていなくて見届けていないのである。今回この文章を書くことになり、土佐高時代を思い出そうと、卒業アルバムを探したが見つからない。私の中の無意識は土佐高を仕舞い込んでいるらしいのだ。

それがどこから来るのか考えてみれば、私は高校生活を楽しむことが出来ず、ぼやっと生きていたことに思い至るのである。私はおとなしい目立たない生徒であったと思う。人前にたつと顔が赤くなった。自意識だけはいつばいであった。自宅は築

屋敷(現在の上町)に在ったので、自転車で通学した。鏡川の堤防を通り、沈下橋を渡り、天満宮に出て、そこから学校までを往復する生活を繰り返していた。部活もせずに、自分が将来何をやりたいのかもわからず、だからと受験勉強をしていたのである。そんな眠っているような鬱鬱とした高校時代であった。

大学に入ったら自分を自由にさせたかった。やっと私は自分の本当にやりたいことを探し始めることになる。そして大学での専攻とはまるで違う方向のイラストレーターの道を志すのである。その中で土佐高の先輩で絵本作家の田島征三さんに出会えたのは幸運であった。まだ自分の世界を模索していた若い時の出会いであったから、絵本の世界の深さ面白さを含め、作品を作る上での大切な核になるようなことをたくさん教えてもらったのである。こうして私は絵本作家としての道を歩み始めることができた。

高知を離れて14年たつて、「にちよういち」という絵本を作った。子供時代を過ごした故郷はいつまでたつても懐かしい。土佐弁と高知の夏の暑さと市の温もりを描きたかったのである。それからしばらくして同期の宮下君が自分の経営する高知のギ

ャラリーで原画展を開いてくれた。それが切っ掛けで、先に述べた「向陽曼陀羅」を描くことになったのである。当時の土佐高は東側の正門をくぐるに蘇鉄が植わっていて、そのすぐ前に玄関のある木造の校舎があった。木造の校舎はさらに南側に、そして西側へと繋がっていた。北側には図書室などのあった鉄筋の新館があった。これらの校舎に囲まれて

体育館、プール、テニスコート、食堂があった。運動場は新館の北側に広がっていた。始めに私は高校時代をぼやっと生きていたと書いたのだが、霧を晴らせば校舎や運動場を舞台上に、土佐中高の6年間のさまざまな光景が浮かんでくる。今もつきあう友人の姿がある。同じクラスに甲子園に行った島村、寺尾のバツテリーがいた。彼らを含め部活に汗を流していた級友たちは、学校生活の豊かさを良く味わっていたのではないだろうか。私の場合「よく学び、よく遊べ」の土佐高の校風は学生時代にはうまく実現できなかったけれど、その精神は大切なものとし今私の中にしっかりとあるのに気づくのである。

さてこの頃の私は還暦を過ぎ、これまであまり顔を出さなかった40会の同窓会にも、ふらつと顔を出そうかという気分になっている。

# 旧校舎の思い出 (S46~H21年)

— 拜啓 土佐高校校舎様 —

村田 謙介 (83回生)

今年も春がやってきましたね。待ちわびていた春なのに、なぜかとても寂しい気分です。三年前の花咲き誇る四月、あなたの門をくぐった私たちを覚えていますか。高校受験を突破したNP（ニューパワー）は、これから始まる新しい学校生活への期待と不安を背負い、戸惑っているように見受けられました。しかし、

その一方で、土佐校生活四年目に突入したOP（オリジナルパワー）は、ここが我らの陣地だと言わんばかりに居座って、NPを威圧していました。

とはいえ、元氣と明るさが取り柄の私たちは、すぐに高校生活に馴染み、それぞれに力を発揮していきました。高一での修学旅行、高二の運動会でのホームゲーム、高校生活でたった一度の向陽祭、高三では集大成とも言える運動会のヤグラ製作。どれもが昨日のことのように思い出されます。行動力と発想力だけではどの学年にも劣らぬと自負していた私

たちは、遊ぶときには遊ぶ、やる時も遊ぶという、歯止めのかからない集団で、いつも先生方にご迷惑をおかけしてしまいました。しかし、そんな私たちを見捨てることなく、先生方は一人ひとりに真剣に向き合い、見守ってくださいました。

背たけばかりでなく、声も大きい学年主任の岡田先生。先生が隣のクラスで授業をしていると、どんなに窓を閉めても声が聞こえてきて、正直集中できませんでした。それは、あなたの築四十年という古さのせいではありません。

独特のキャラをいかした分かりやすい授業で教室を爆笑に包んだ鈴木先生。しかし、一方で、自分に厳しく、他人にはもつと厳しく、の精神が私たちに活を入れてくださいました。小さな身体でも、野獣のようにパワフルな大日先生。学年全員で協力し作った、四一五個の古文単語のゴ口覚え。ゴ口が複雑すぎて逆に覚えにくかったのは、恐らく気のせいでは

ありません。

私たちの返答に対して、的確にツッコミを入れて、笑いを引き起こした前田先生。現代文の授業での先生のドスッぷりに、私たちは終始感心していました。次々と自分で公式を作って教えてくださった、ファツションセンス抜群の藤岡先生。数学の神になる日も遠くはないと思います。

英語を通じて心のつながりを教えてくださった阿波谷先生。ひたすら平和を望む先生に共感しながらも、ギャグのために、気になっているであろう髪の毛をネタにしている姿に私たちは胸を痛めていました。

このような個性豊かな先生方に囲まれ、私たち八十三回生も、元来持つている個性を失うことなく、のびのびと学校生活を送ることができたことを、改めて感謝します。

……（中略）……

私たち八十三回生は、この校舎で学び、この校舎で成長して参りました。たとえ、あなたの姿がなくなっても、私たちの土佐校に対する想いは心の中で生き続けます。寂



しいけれど、この校舎に感謝して、生まれ変わる新たな校舎へと期待をつなげます。私たちは、あなたのことをずっとずっと愛しています。あなたと過ごせた青春時代。それは何にも代えることのできない、大切な思い出です。報恩感謝の精神を持ち、あなたが新しい校舎へと希望を託すように、私たちも大好きな後輩たちに希望を託し、この辺で筆を置かせて頂きます。またいつか、あなたの元へ帰ってくることを約束し、答辞とさせていただきます。

この文章は、平成二十年一月三十一日に行われた卒業式の答辞として書かれたものです。



# 同窓会会長・幹事長 就任のご挨拶



会長  
岡内紀雄  
(34回生)

今年八月の総会において、図らずも宮地会長の後を受けて、同窓会の会長に選任されました。どうぞよろしくお願いいたします。

土佐中・高同窓会は、今年三月卒



幹事長  
西山彰一  
(48回生)

晴れの日も、曇っている日も、そして雨の日も輝き続ける、兼山碑下にそびえたつ新しい学び舎が完成いたしました。新校舎建設に当たって、制約の多い大変難しいハードルを乗り越え、安心、安全を第一に事業を遂行して下さった皆様に心から感謝申し上げます。

二〇〇九年の総会で安岡範悦さんより幹事長の重責を引き継がせてい

業の八十四回生を加えて、会員総数約一九、〇〇〇名となっています。残念ながら鬼籍に入られた方々もいらつしゃいますが、多くの同窓が各界で活躍を続けており、大いに心強ク思っております。

時あたかも、南海地震に備えるとともに更なる発展を期して新たに建築した校舎が完成し、土佐校新時代の幕開けとなりました。

ただきました西山彰一でございます。何かと至らぬ点が多いこと存じますが、どうかよろしくお願い申し上げます。私は、昭和四十二年に江戸小学校を卒業し、土佐中学校の門をくぐる事が許されました。当時は木造校舎で、あつちこつち、ミシミシと軋む音がしておりましたが、今、思い出してみると、周りがどんなに騒がしくても、集中できる不思議な力があつたように思います。高知商業高校(市商)が見える木造校舎で高校一年まで学び、四階建ての鉄筋の旧校舎には高校二年から昭和四十八年の卒業の日までお世話になりま

同窓会は、母校に事務局を置く本部と、関東・関西・東海・広島・香川・北海道の六支部が連携して、毎年、総会などの事業を実施してまいります。

この会の目的は、会員相互の親睦と、各自の向上を図るとともに、母校の発展に対する物心両面の支援を行うことであります。

会員相互の信頼を深め、土佐校の

した。手元にある卒業アルバムはセピア色になっていますが、六年間の母校での日々は心の中で褪せることなく鮮明に残っています。

母校の創立九十周年の記念事業の一つとして、新しい同窓会名簿の発行を二〇一〇年末に行います。皆様、名簿掲載の調査票が届く事と思いますが、必要事項の記載や変更事項などを同窓会本部に返送をよろしくお願いいたします。さらに、新しい校舎の自慢の筆山ホールにおいて卒業生を招いての講演会を企画しておりますので、是非、ご参加ください。

同窓としての誇りを持って、みんなが楽しんで参加できるよう、役員のみなさんご協力をいただいて、この会の充実した運営を図ってまいります。

会員みなさんのご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、母校の限らない発展を祈念いたしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

二〇一〇年は「功名が辻」に続くNHKの大河ドラマ「龍馬伝」の放映と、一年間の会期の「土佐・龍馬であい博」が尾B正直知事(61回生)をリーダーに、高知県内各地で開催されます。

是非、この機会に、遠くに住むご友人を高知にお招きになられてはいかがでしょうか。とびつきり上等のまるごと土佐 <http://www.kochi-nanugoto.com/> を満喫していただけること存じます。

皆様にとって、二〇一〇年が輝かしく幸せに満ちた年でありませう。お祈り申し上げます。

# 新たな伝統をつくる! よさこいチーム「陽」

代表 永田 智弥 (83回生) 副代表 北村 悠夏 (83回生)



思い起こせば、大学進学を目前に控えたあの三月某日から、私たちの大学生活が他と異なっていたように思う。しかしながらその経験は、私たちを幾分にも成長させてくれたし、まさに人生の契機だったと言っても過言ではないだろう。そして、もしこの件に関わっていないければ、自分達を土佐人としてこれほどまでに誇れることはまずなかったように思う。

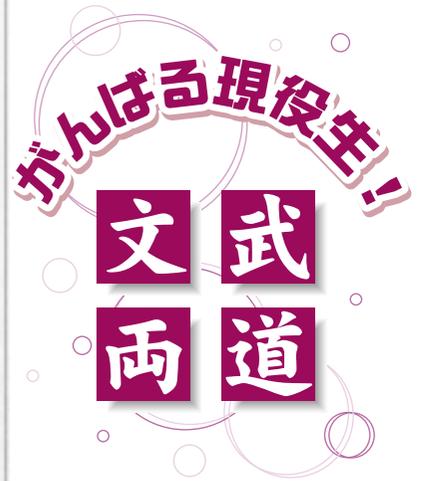
私たちが大学一回生の時からの付き合いになる「TEAM YO(チーム陽)」は、来年、節目となる五周年を迎える。このよさこいチームは、当時大学三年生であった79回生の有志によって立ち上げられたが、その後代々、その運営を先輩が引き継いでいっており、毎年違う色を見せている。その中で私たち83回生二人は、その三期目、および四期目において代表に就かせて頂いた。なぜ私たち二人が代々受け継がれているチームの代表を二期に引き務めることになったのか? それは、このチームの活動目的が代を増す毎により高いものになっていった事と、チーム運営の難しさ、という二つの点に起因する。

発足当初の目的としては、「同窓会の一つとして楽しむ」ことがその旨であったように聞く。しかし、私たち83回生がよさこい祭に参加し、肌でよさこいのパワーを感じたことにより、「高知県最大のイベントであるよさ

こい祭の一翼を担つ」、「大学生のうちから社会参加の経験をしておく」、「土佐高校の新たな伝統をつくる」ことが、その目的に取って変わっていた。また、高校卒業後すぐに、大学生からすれば超多額の資金を、企業や関係者に協力を呼びかけ、遣り繰りしなければならぬこと、また百人規模の人をまとめることを要求されるこの運営は、非常に困難を極めることとなった。これらのことから、先輩から先輩にスムーズに運営を継承することを第一として考慮した結果、「一回生が主、一回生が補」、すなわち一年目は先輩を見て学び、二年目に自分達で運営を行うというチーム体系を確立することが不可欠と判断し、二期に及び代表を務めることを決めた。

83回生運営二年目の今年はその体系確立の年であり、84回生に伝えることが最重要課題であった。伝えられることは伝えたいと思うし、彼らであれば来年も間違いなく成功裡におさめてくれるだろうと思っている。このチーム「陽」が今後長きに亘って続き、新たな土佐高校の伝統となることを切に願っている。

最後になりましたが、チーム「陽」を運営するにあたって、同窓会の諸先輩の方々、保護者の皆様から、有形無形のご支援を賜りましたことを、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。今後ともチーム「陽」を宜しくお願い致します。



# 登山部 全国一に輝く!



登山部顧問  
都築 圭  
(70回生)

よく聞かれます。「登ってなにを競うのですか」マイナーな競技なので、当然のご質問だと思います。

登山は、体力や技術に加えて、読図、計画書・天気図作成、気象や救急の知識など「知的なもの」が100点満点で審査されます。

体力は、長い行程を安全に余裕をもって行動できることが審査されます。7、8時間も山を歩けば、自ずと体力差は出てくるので、タイムレースは行われません。今回は高3生1名と高1生3名の若いパーティーでしたが、体力には自信がありました。

しかし、今年の勝因は「知的なもの」の完成度の高さといえます（土佐らしいですねえ）。これはひとえに高3の賀門君に依るところが大きい。彼は唯一の高3として後輩を指導し、高1生もそ

れを素直に吸収していきました。期末考査やクラスマッチ、夏期補習の合間をぬって短期集中で高水準のものに仕上げたのは、いかにもうちの生徒らしいと思います。

今回の結果は、思いのほかたくさんの方に注目され、また祝っていただけました。ただ、地味なクラブですので、注目されることに慣れていません。正直、予想外のあたたかい反応に戸惑ってばかりでした。

一昨年、ぼくは岡松先生から登山部の顧問を引き継ぎました（ぼく自身も登山部OBです）。ぼくが生徒のころから部員数は毎年10名ほどで、年によっては、昨年のように部員数不足で県体に出場することもできないこともあります。そんな小さなクラブですが、ささやかながら新校舎落成に花をそえられたことをうれしく思っています。



**全国大会に出場した運動部**

●高校インターハイ

- 【団体】ハンドボール部(男子), テニス部(女子), 登山部
- 【個人】陸上部: 松岡優毅・林 淳子・北村真裕子・星澤紗誉  
鈴木智子・中村優歩・宮崎真嘉・武藤祐希
- 自転車部: 岡田廉太郎
- 水泳部: 椿佐古晃大

●全国中学校体育大会

- 陸上部: 男子400mリレー(松葉・荒木・松元・宮田・中田・堀野)  
女子400mリレー(松岡・新納・森木・安岡・大峰・久米)
- 水泳部: 塩見真章・佐々木麻い

**高校県体**

- 【団体】優勝 テニス(女子・3年連続), ハンドボール(男子・2年連続)  
登山
- 2位 バドミントン(男子), サッカー, 自転車競技
- 3位 陸上(女子), ハンドボール(女子)
- ベスト4 バレーボール(男子), 剣道(男子)
- 【個人】優勝 陸上: 男子400m(松岡), 400mH(松岡)  
女子400mH(鈴木)
- 柔道: 90kg級(竹内)
- 自転車: 1kmタイムトライアル(岡田)  
スプリント(岡田)
- チームスプリント(楠目・大野・岡田)
- 水泳: 女子200m自(中平)

**高校四国六会**

- 【団体】3位 登山
- 【個人】優勝 陸上: 男子400mH(松岡)
- 自転車: 1kmタイムトライアル(岡田)  
スプリント(岡田)

**中学高知市体育大会**

- 【団体】優勝 陸上(女子), 水泳(男子), サッカー, バドミントン(男子)
- 2位 バスケットボール(男子), ハンドボール(女子)  
空手道(男子組手)
- 3位 ハンドボール(男子)
- ベスト4 軟式野球, バレーボール(男子), 卓球(女子), 剣道(男子)

- 【個人】優勝 陸上: 男子100m3年(松葉)  
女子400mリレー(新納・森木・安岡・松岡)  
1年走り幅跳び(久米)  
走り幅跳び(松岡)
- 水泳: 男子50m平1年(萩原), 100m平(塩見)  
200m平(塩見), 400m個人メドレー(諏訪)  
400mメドレーリレー(久保・塩見・田埜・諏訪)  
女子50m自2・3年(佐々木), 200m背(佐々木)
- バドミントン: 男子ダブルス(米沢・川村)

**中学県体**

- 【団体】優勝 バドミントン(男子), 水泳(男子)
- 2位 ハンドボール(女子)
- ベスト4 ハンドボール(男子), テニス(女子), 空手道(男子組手)
- 【個人】優勝 陸上: 男子400mリレー(松元・荒木・宮田・松葉)  
女子400mリレー(新納・森木・安岡・松岡)  
走り幅跳び松岡
- 水泳: 男子100m平塩見, 200m平塩見  
400mメドレーリレー(久保・塩見・田埜・諏訪)  
女子100m自西森, 100m背佐々木  
200m背佐々木
- バドミントン: 男子ダブルス(青木・高橋)

**全国大会に出場した文化部**

- 【棋道部】第33回文科大臣杯全国高校囲碁選手権: 男子個人(谷渕・清家)  
女子個人(前川)
- 第33回全国高校総合文化祭囲碁部門: 男子団体(清家・谷渕)  
女子個人(前川)
- 第33回全国高校総合文化祭将棋部門: 団体(近藤・橋本・山崎)
- 第22回全国高校将棋竜王戦(一圓)
- 第6回文科大臣杯小・中学校囲碁団体戦(川村・松尾・土方)
- 【放送部】第56回NHK杯全国高校放送コンテスト  
ラジオドキュメント部門(高橋・安岡・福永・西内)  
朗読部門(高橋)
- 【写真部】第33回全国高校総合文化祭写真部門(中平)
- 【芸芸部】第33回全国高校総合文化祭芸芸部門: 文芸誌(井上)  
散文(大久保)  
詩(山崎)

●合格の状況●

国立大学	現	浪	計	進学
帯広畜産大	1		1	1
東北大		1	1	1
筑波大	1		1	
千葉大		3	3	3
東京大	7	2	9	9
東京医科歯科大	2	1	3	3
東京外国語大	2		2	2
東京学芸大	1		1	1
東京農工大	2		2	2
東京工業大		2	2	2
一橋大	2		2	2
横浜国立大	5		5	5
富山大		1	1	1
信州大	2	1	3	2
名古屋大	1	1	2	2
滋賀医科大		2	2	2
京都大	3	3	6	6
京都工芸繊維大	1		1	1
大阪大	5	7	12	12
大阪教育大	1		1	1
神戸大	7	4	11	9
岡山大	8	4	12	12
広島大	3	1	4	4
鳥取大		1	1	1
山口大	1	1	2	2
徳島大	4	3	7	6
香川大		2	2	2
愛媛大	4	1	5	5
高知大	28	7	35	31
九州大		3	3	3
大分大		2	2	2
鹿屋体育大	1		1	1
計	92	53	145	136
昨 年	91	41	132	122

公立大学	現	浪	計	進学
高崎経済大	1		1	1
首都大学東京		2	2	2
横浜市立大	1		1	1
静岡県立大	1		1	1
大阪市立大	1	2	3	3
大阪府立大	1	1	2	1
神戸市外国語大	1		1	1
兵庫県立大	1	1	2	2
岡山県立大	1		1	1
香川県立保健医療大	1		1	1
高知女子大	2		2	2
九州歯科大	1		1	1
計	12	6	18	17
昨 年	14	6	20	16

私立大学	現	浪	計	進学
自治医科大	1	1	1	1
独協大	1		1	1
青山学院大	3	4	7	3
学習院大	2		2	1
北里大	2		2	2
慶応義塾大	13	4	17	7
国際基督教大	3	1	4	
芝浦工業大		2	2	
順天堂大	1		1	
上智大	2	1	3	2
昭和大	1		1	1
成蹊大	1	1	2	1
成城大		2	2	1
専修大		3	3	
創価大	4	1	5	2
中央大	11	16	27	9
帝京大		1	1	
東海大	1		1	
東京女子大	1		1	
東京電機大	1		1	
東京農業大	8	4	12	2
東京薬科大	2	1	3	1
東京理科大	6	14	20	5
東洋大	2	2	4	3
日本大	6	2	9	2
日本獣医生命科学大	1		1	1
法政大		16	16	4
武蔵野音楽大	2		2	1
武蔵野大	1	1	2	1
明治大	10	10	20	6
明治学院大	4		4	
明治薬科大	1		1	1
立教大	3	2	5	1
早稲田大	22	21	43	10
麻布大	1		1	1
神奈川大	1		1	1
関東学院大		1	1	
昭和音楽大	1		1	
金沢医科大		2	2	1
金沢工業大	1		1	
名古屋芸術大	1	1	2	2
藤田保健衛生大	2		2	1
南山大	2		2	
大谷大	3		3	1
京都外国語大	2		2	
京都産業大	4	8	12	3
京都薬科大	3	3	6	4
同志社大	18	17	35	8
同志社女子大	1		1	
立命館大	42	24	66	10
龍谷大	4	3	7	2
大阪経済大	1		1	1

私立大学	現	浪	計	進学
大阪芸術大	1		1	1
大阪産業大		1	1	
大阪薬科大	5	2	7	1
追手門学院大	1		1	1
関西大	14	10	24	3
近畿大	6	4	10	
大阪国際大	1		1	
平安女学院大	1		1	1
四条畷学園大	1		1	1
関西学院大	21	14	35	6
甲南大	2	1	3	
神戸学院大	4	6	10	2
神戸薬科大	1	4	5	1
兵庫医科大		1	1	1
川崎医科大		1	1	
倉敷芸術科学大	2		2	1
広島国際大	1		1	
徳島文理大	4		4	2
松山大	1	1	2	
高知工科大	5	1	6	
沖縄大	2		2	1
計	273	217	491	126
昨 年	288	203	491	136
その他				
短大	1		1	1
留学	1		1	1
専門学校・他	2		2	2
進大学				
防衛大	1		1	

# 平成21年度入試の総括

進路部長 岡松宏明 (51回生)

今春に卒業した84回生の挑戦した大  
学入試結果をまとめます。1月17、18  
日に実施されたセンター試験は、247名  
が受験しました。国語、英語が昨年よ  
り難化、標準的な国立受験タイプの  
7科目受験者の全国平均点は20点程度  
下がりました。センター試験が難化す  
れば第一志望を変えずに受験するか  
慎重な出願に変更するか難しい判断を  
迫られる受験生が増加します。そんな  
中でも依然として難関大志向は高く  
旧帝大や一橋・東工など国立を中心  
として優秀な受験生が集まりハイレベ  
ルの入試が今年も繰り広げられました。  
本校の現役合格者は延べて国公立大  
が104名、私立大が273名(昨年度各103

名・288名)とほぼ同様の成績を維持、  
全体の合格率は68%で特に女子は80%  
を超える高い数字となっています。今  
年の現役生の傾向は文系に実力のある  
生徒が多く集まったことです。それは  
模擬試験の段階からすでに読み取れ  
ていたがセンター試験でより鮮明に  
表れました。先に述べました通り、全  
国平均は昨年より20点以上も下がりま  
したが、本校の文系7科目型の受験生  
の平均点は逆に9点アップしています。  
志望校も全体に目標が高く、京大から  
東大へ志望をシフトする生徒が多か  
ったのも特徴です。現役の東大文系類の  
合格者6名(文一2名、文三4名)は  
近年にない結果です(昨年は2名)。  
また難関大において現役合格者に占め  
る女子の割合が高かったのも今年の特  
色です。東大5/7 一橋2/2 大  
阪4/5 神戸4/7 岡山5/8  
広島3/3 国公立医9/14 慶大  
6/12 早大12/22 と女性パワーが  
さく裂した印象があります。  
来春に向けた現段階の課題はまずセ  
ンターを中心とした基礎学力の底上げ  
です。特に今年の高校3年生は医学部  
志願者がたいへん多いので、センター  
試験で高得点を出すことが必須条件と  
なります。その上で記述試験に対応で  
きる高レベルの力をつけるよう、しつ  
かりした取り組みを生徒たちに促して  
いきたいと思えます。主任団も一丸と  
なって熱心に指導してまいります。き  
つと来春もいい結果が報告できること  
と期待しています。

## 関東支部

事務局長 二宮 潔(49回生)

今年も六月の一大イベント「関東支部総会・懇親会」(於…三菱開東閣)が無事に大盛会で終わり、ほっと一息ついた七月某日、市川幹事長(53回)と鶴和顧問(41回)からほぼ同時に「戸田浩司君(80回)が七月十八日のG T戦で始球式をすることになった!」とのビッグニュースが飛び込んで来ました。四年前に戸田君の血液疾患を知って骨髓バンク支援に乗り出した読売巨人軍が企画でした(於…東京ドーム)。



さっそくサンスポの同級生、吉井君(49回)に写真提供をお願いし、当日、市川さんと私の二人が東京ドームに駆け付けると、ドーム前では「ドナー登録会」も行なわれており、戸田君も始球式の前に特設ステージで登録を呼び掛けました。

ドーム内に入って、高知から駆け付けた戸田君のご両親にご挨拶していると、戸田投手が高知大学の先輩捕手を伴い、ご両親の見守る前で幾分緊張した様子で投球練習を始めました。程なく本番が到来、場内アナウンスと共に電光掲示板には「始球式 戸田浩司さん」と大きく映し出され、戸田投手のサイドスローから放たれた白球は見事、ジャイアンツ鶴岡捕手のミットに納まり、大観衆の場内は大きな拍手で包まれました。試合中には、始球式を終えた戸田君と先輩捕手が面会に訪れ、互いにガッツリ握手。「まさかこんな企画に恵まれるとは思ってもみませんでした。緊張しました。九月には、土佐高校に教育実習にお伺いすることになっていきます」と精悍な笑顔が印象的でした。

後日サンスポから送られた数々の写真によれば、戸田君が始球式で使用了グローブには「戸田浩司復活」と刺繍が施されていました。

## 東海支部

幹事長 村山文世(41回生)

昨年九月のリーマン・ブラザーズ倒産に端を発した世界同時不況の激変は東海地方では「トヨタ・シヨック」という形で多に混乱影響を受け、元氣な愛知は遙か彼方に飛んでいったかのようです。しかしながら地道な物づくりの土地柄ゆえ、エコーカーで再び元氣が回復し始めました。スポーツにおいて中日ドラゴンズの今年開幕早々から既に冬眠状態に入っていました。トヨタの景気の回復に伴うかの様に目が覚めて粘り強く上昇し始めました。これらが楽しみです。グランパスはまだ眠っていますが、少し目が開き始めました。これからウインタースポーツのシーズンに入ると、女子フィギュアスケートで、浅田、安藤、中野の愛知三人娘が活躍する事と期待しています。

五月十六日にキャッスル・プラザホテルで開催した東海支部総会には母校から池上校長先生、同窓会本部から40回生横田副会長のご出席をいただきありがとうございました。校長先生からは、今春の進学状況、とりわけ女子生徒の躍進振りはすさまじい事、新校舎建築の途中経過及びいよいよ今秋十一月十八日(開校記

念日)に待望の竣工式が行われるとの事等、躍進する母校の報告があり一堂おおいに元氣づけられました。又、横田副会長からは定着したホームカミングデーについて今年完成間近の母校で行われる事の説明があり、大変楽しみになりました。



東海支部久保地支部長より新校舎の建築募金に関して更なる協力を具体的にを行うよう重ねて支部会員にお願いがありました。各支部から出席頂いた来賓の方々からも各支部の活発な活動など、近況報告を頂きました。更に、特別来賓として今年も48回生、馬路村の上治村長がわざわざ出席して下さい、ヴァイタリティー溢れる話題豊富なスピーチに元氣を頂き、加えて馬路村ブランドの㈱エコーアス馬路村の製品を提供頂き会場は興奮のルツポと化しました。

東海支部は相変わらず少人数ではありますがありますが、ナゴヤの元氣を再び取り戻そう!と支部会員一同がんばっています。新校舎が完成して、立派

な校舎で現役学生が学ぶ姿を想い、併せて向陽グラウンド育った球児が活躍されて、甲子園のセンターポールに上がる校旗を眺めて向陽の空を歌える日が来ることを夢見ております。

## 関西支部

支部長 川崎美榮子（42回生）

いよいよ、新校舎が完成した。私の記憶にあるあのメタセコイアの巨木のあつた玄関ははるか昔に跡形もなく消えて、筆山ホールや大きな体育館、コミュニケーション・スペースを配した巨大な校舎である。空調も整備されてさぞかし勉学にもスポーツにも力がいえることだろう。校長先生以下皆様のご苦勞の賜物である。

しかしながら、土佐校の校風だけは変わらないで欲しいというのは卒業したものの勝手である。勝手ではあるが、ほんとうに面白い校風だったと思う。私は高校からの編入生であったので在学したのはたったの三年間、それでもこの校風の恩恵は十分に味わうことができた。

それは何かというと悪く言えば「ほったらかし」、良く言えば「管理されない良さ」という点である。運動会のホームゲームでも櫓組みでもはたまた自治会の運営はおろか会費

の値上げまで生徒が寄ってたかつてやっつてしまう。予算小委員会などはサークルに補助される予算の割り振りを自分たちで決める習慣であった。土佐校の先生方はこれなら楽だろうと思つたものだった。先生のほうも「こいつらはひよつとしたら偉くなるかもしれない」と思っているから人間として平等の扱いをする。後に娘を持つて学校に行く機会があると、学校の先生だからといってあんなに偉そうにいうことはないだろうと違和感を持つた。

先日、土佐高校の自治会執行部と壁の穴を隔てて隣室の新聞部の仲間と北川村温泉に小旅行をした。同時代を同じ校舎で過ごした都築房子氏の個展を製紙工場でされていたので立ち寄つた。四十年余り昔がフラツシュ・バツクされてくる。中岡慎太郎記念館やモネの庭を訪れて高知の頑張りをしつかりと感じた。

新しい校舎がまた高知の人材を育てて高知の頑張りを支えてくれることを信じて期待している。

## 広島支部

幹事 川崎一仁（50回生）

今年もホームカミングデーに行つてきました。今年は特別な年で、母校の新校舎が完成しております。まさに二十一世紀の校舎でした。立



派な校舎でした。私の中学入学時は木造の校舎で、中三の頃に当時の新校舎ができました。私より先輩の方々からすると、木造校舎に愛着があるのではないかと思います。当時の木造校舎は木造としては立派で、先生方も自慢の校舎だったようです。柱がとて大きいことを自慢する先生もおられました。生徒の私としては何が立派がよくわからなかったのですが、それ以前の校舎に較べていたのではないかと思います。ですから、今の私からは、この今新しく完成したこの校舎がどんなに立派がよくわかります。ではあります、思い出になるのは校舎ばかりではありません。その

## 香川支部

支部長 安岡弘道（41回生）

今回七月の支部総会で宮地正隆前支部長（36回）から支部長の引継ぎを受けました。力量不足ではありますが香川支部の発展と会員相互の交流親睦に精一杯頑張りたいと思います。支部の活動は年一回の総会及び懇親会と会報「かけはし」の発行、各支部総会への派遣であります。総会は例年「七夕総会」と称して七月第一週の土曜日に行つており今年七月四日（土）でしたが第十四回にな

中で過ごした日々には「愛着」があるのです。思い出されるワンシーンそれぞれに愛着がわくのです。忙しい毎日には忘れていた、昔の懐かしい日々が思い出されるのです。先生方との思い出、同級生や先輩後輩との思い出。また、当時、先生方がどのような思いを持ちながら授業を行つておられたか、今になってわかること、それも今感じる懐かしい思い出です。そんなことを思い出させてくれるホームカミングデーでした。また、ことは当時あまり親しくなかつた同級生と親しくなり、また「恒例の」西峯先生の授業の思い出話に花が咲きました。また、西峯先生と「後輩」の知事とのスリーショットも記念になりました。

ります。場所はこしばらく昔懐かしい宇高連絡船橋跡地「サンポート高松」地区にあるランドマークの一室で瀬戸内海に沈む夕陽を眺めながら懇親会を行っています。出席者三八名、来賓六名の合計四四名でした。県内在住の卒業生は二〇〇名近くいるようですので約二割になりましょうか。今年は久し振りに池上校長が日程をやり繰りして出席いただきました。母校の近況や新校舎の建設状況につき詳しくご報告いただきました。特に登山部の全国大会優勝の快挙には会場が大いに沸きました。ところで香川県の近況ですが、高速度道路千円効果で県外ナンバーが目立つようになり讃岐うどんは勿論ですが「こんぴらさん」も賑わっています。奉納されている著名なふすま絵や壁画を積極的に一般公開しておりこの夏バリへも凱旋出展して大好評でした。

そして来年は香川から世界に向けて発信する二つのイベントがあります。春に「第二回高松国際ピアノコンクール」があり世界各国から才能を持った若いピアニスト達が集まり約一ヶ月にわたって腕を競い合います。四年に一度の催しですが第一回は我が母校の先輩 故中澤正良さん(38回)が実行委員長を務め大成功を収めました。

七月には「瀬戸内国際芸術祭」が直島・豊島を始め七つの島を舞台に十月まで開かれます。過疎の島を現代アートと取組むことで再生させ元気にする運動が二十年前から始まりその成功例が世界的に有名になりました。それ以外にも魅力的な島々が沢山あり多島美の瀬戸内海の景観と相俟ってそれはそれは素晴らしい島巡りとアートとクルージングのコラボレーションが楽しめます。是非お出てください。

## 北海道支部

幹事 山内千佳 (53回生)

北海道は、十月に入りますとあちこちで美しい紅葉がみられ、同時に朝晩はストーブが欲しくなる頃でもあります。十月末には初雪のニュース、十二月初旬には根雪になり、三月下旬まで雪に覆われてしまいました。三月になると天気予報の最高気温がプラスになるのが楽しみでなりません。北国のひとが春を待ち遠しく思う気持ちがよくわかります。

私事で恐縮ですが、北海道に嫁いで二十五年余りが過ぎました。高知で過ごした年月よりも長くなりました。主人の仕事の関係で札幌、北見、帯広、江差、赤平と住み、十二年前に道東の別海町に落ち着きました。別海町は人口一万五千余り、乳牛

が十一万頭。酪農と漁業の町です。面積が香川県と同じくらい、山は少なく、牧場が続きます。庭先には時々キタキツネが出現し、町はずれの家の庭にはエゾシカが顔を出します。

高知にいたる時には、異国のような北海道に、まして、こんな道東の小さい町に住むとは思いませんでしたが、今では日本ハムファイターズと駒大苫小牧を応援するまでになつてしまいました。ただ、甲子園で相手が土佐高になつたときは、土佐高を応援するからね、と家族に言っていました。

北海道支部の近況について、お知らせします。昨年九月末に島村さんが転勤で札幌を離れられ、また今年三月末には池川さんご夫妻が高知に帰られることになり、役員十二名中三名が北海道を離られました。現在は山本事務局長、和田幹事を中心に活動しています。十一月二十一日には、北海道支部総会を予定しております。北海道支部は、人数は少ないですが、集まれば、酒豪の土佐人らしくお酒ははかどり話題は尽きません。旧校舎や、お習いした先生、クラブの話、土佐弁が飛び交い、北海道にいたることを忘れさせてくれる時間です。転勤や進学で北海道にいらしたら、ぜひ北海道支部に連絡してください。故郷が近くなると思います。お待ちしております。

## 本部二〇〇九年度事業計画

- 1、二〇〇九年度総会の開催
- 2、土佐中・高新校舎建築に伴う寄付金募集に対する協力
- 3、同窓会活動について各支部と協議・交流
- 4、会員名簿の発行準備
- 5、筆山ホールにて講演会予定
- 6、名簿情報管理システム化
- 7、同窓会財務強化改善
- 8、その他、母校の発展に資する事業

## 土佐中・高等学校

### 同窓会新役員

(二〇〇九年八月一日改選)

会長	岡内 紀雄 (34回) 新任
副会長	横田 整二 (40回) 再任
副会長	川崎 康正 (42回) 再任
副会長	北村恵美子 (47回) 再任
副会長	徳永 俊一 (49回) 新任
幹事長	市川 直介 (53回) 新任
副幹事長	西山 彰一 (48回) 新任
副幹事長	岡田 容典 (47回) 再任
副幹事長	田所 智子 (49回) 新任
副幹事長	宮地 貴嗣 (61回) 再任
副幹事長	矢野 公士 (62回) 再任
会計	千頭 裕 (58回) 再任
会計監査	森木 将雄 (32回) 再任
会計監査	田中 章夫 (40回) 再任

# 振興会報告

会長代行 島巻 淳 (55回生)

元会長がある教育関係者の会合に出席した際のエピソードを引用させていただきます。

高知の教育界のある重鎮がこうおっしゃったそうです。「私は土佐校の校風が好きだ。校舎が新しくなっても、土佐校の校風は変わらないでほしい…」  
「土佐校生は、高校時代は少しのんびりしているが、社会に出てから大きく伸びる…」

十一月十八日に、グラウンドも含めた新校舎落成竣工式典が執り行われますが、新校舎は全国的にみても最高レベルの学びの環境であると確信しています。(まだご覧になっていない同窓生の方は、ぜひ次回のホームカミングデーでご確認ください。)土佐校のすばらしい伝統を受け継ぎ、そして新しい歴史を築いてゆくには、最高の舞台となったといえるでしょう。

我々振興会も保護者の立場で、同窓会の皆様と手を携え、土佐校の発展に寄与したいと考えております。今後とも振興会活動にご協力いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

会長代行(進学)	島巻 淳	理事	吉澤文治郎
副会長(総務)	田所 智子	理事	山尾 康江
副会長(広報)	高木 直之	理事	島B 留瑞
監事	福島 高明	顧問	徳永 俊一
監事	竹内多恵子	顧問	北村恵美子
理事	植田 一穂	顧問	西村希多子
理事	西本 和男		

## 2010年 来年5月予定 会員名簿調査のご案内

いよいよ新校舎が落成し、来年は創立90周年を迎えるわが母校。

記念事業の一環として、恒例の同窓会会員名簿を来年11月に発行する予定です。より精度の高い名簿を会員の皆様にお届けするために名簿調査にご協力を宜しくお願ひ致します。

それに先立ち、クラス幹事さんには、宛先不明者リストを送付致しますので、調査のほどを宜しくお願ひ致します。

### 創立90周年記念同窓会名簿作成委員会

二〇〇八年度物故者名簿		二〇〇九年八月一日現在	
会 員			
20・8・5	山本 啓輔(22)	21・1・5	西山 五朗(28 M)
20・7・2	島内 克之(32 T)	20・11・20	窪田 修二(12)
20・6・19	市川 博興(29 S)	20・11・11	青木 周平(45 S)
20・3	吉本 弘政(22)	20・11・10	前田眞三雄(30 O)
20・2・3	足達 俊雄(50 H)	20・11・4	富田 信正(8)
20・1	岡林 和明(47 O)	20・10・15	領地 賢祐(33 S)
19・9	西森 淳夫(28 L)	20・9・26	目代 裕彦(40 S)
平19・1・9	瀬戸 項一(67 O)	20・9・9	中村 一典(36 O)
		20・8・28	C 橋 熙(37 S)
		20・8・16	近藤 卓司(31 O)
		20・8・14	中島 國治(25)
			旧職員
		20・11・8	元吉 和雄
		20・9・30	近藤 光亀
		19・12・8	中司 愛子
		21・3・27	邑田 容(25)
		21・3・9	三木 久嗣(30 K)
		21・2・19	濱 聰(21)
		21・2・10	松岡 辰雄(32 T)
		21・1・29	小笠原和彦(28 K)
		21・1・11	泉山 史貴(58 K)
		21・1・5	内田 均(47 T)

### 編集後記

ある日の同窓会室での会話……

「今回は新校舎落成を中心に特集を組もう」

「けんと同窓生にとっては、新校舎よりも旧校舎とか木造の校舎やろう」

「木造校舎といえば、西村さん(40回生)の向陽曼陀羅がえいぜねえ。文章書いてもらえんのかな? 電話してみるかえ」

……「書いてくれるってー」  
西村さん、ありがとっございました。第11号も一本心が通りました。

岡田 容典 (47回生)

